

令和7年度 病害虫防除技術情報 第2号

令和7年5月27日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

ピーマン斑点病の防除対策について

5月中旬に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病葉率ともに、平年を上回っております。本病は多湿条件を好みますが、1か月予報（5月22日・福岡管区气象台発表）によると、気温は高い確率が40%、降水量は多い確率が40%と予想されています。また、本病は株の樹勢低下により発病が助長されます。今年度は、ピーマンが順調に生育した反面、着果負担による樹勢低下によって本病の発生が早まっていると考えられます。

1 発生の状況

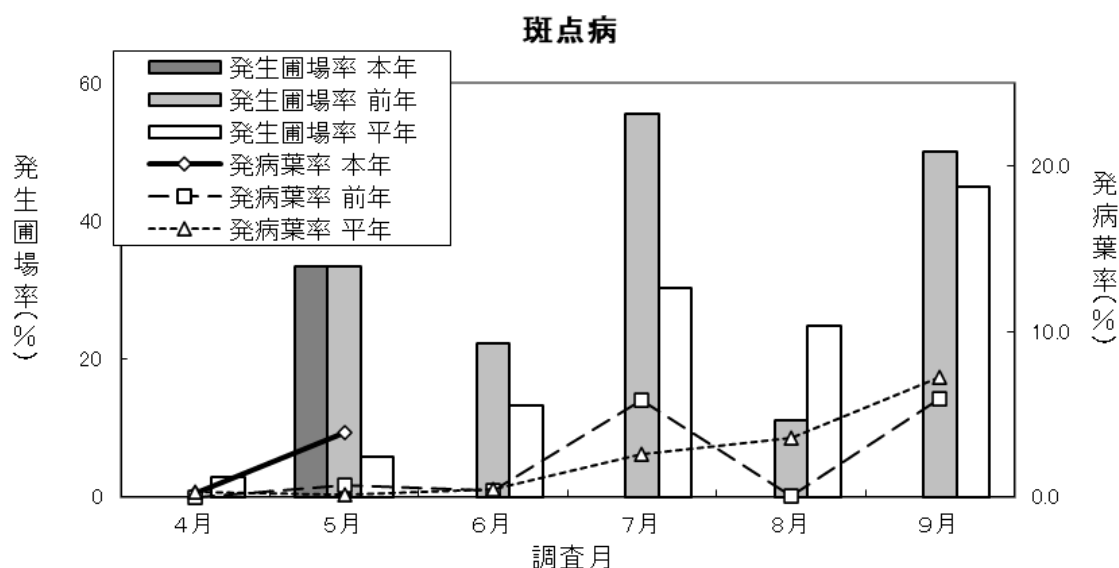
5月中旬に実施した巡回調査結果

発生圃場率：33.3%（平年：5.8%、前年33.3%）

平均発病葉率：3.9%（平年：0.1%、前年0.7%）

2 ピーマン斑点病の予測

5月中旬の調査で、発生圃場率33.3%、平均発病葉率3.9%と平年（過去10年間）に比べ高い発生が確認されています。今後も、発生面積、発生量ともにやや多い状態が続くと予想されます。

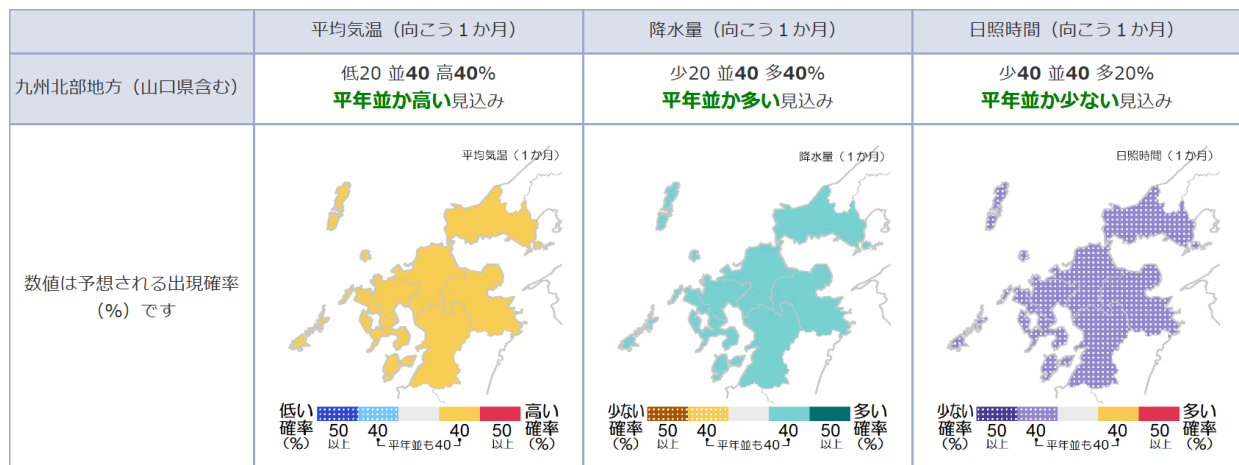


3 今後の気象状況

5月22日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（5月24日から6月23日まで）は以下のとおりとなっております。降水量は、平年並か多いとの予報であり、本病は多湿条件で発生が助長されるため、注意が必要です。

福岡管区気象台のホームページ

（<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010900&term=P1M>）より抜粋。



4 防除上の注意事項

- 一旦発生すると防除が困難になるので、予防散布や初期散布に重点を置くとともに葉裏に十分薬剤がかかるようにしてください。
- 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布してください。
- 高湿度が発生を助長するので、摘葉や整枝を行い湿度管理に努めてください。
- 本病の被害により落葉した葉はできるだけこまめに圃場外へ持ち出して処分してください。
- 窒素不足等により株の樹勢が低下すると発病を助長するため、肥培管理に注意し、樹勢を維持するように心がけてください。

病虫害対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

